

協議会委員参加者

- 田中 恒子 (地域教育相談員)
- 仲島 浩 (和泉市立和泉中学校長)
- 山野 正広 (和泉市総務部人権・男女参画室長) 運営協議会副会長
- 西田 芳正 (大阪府立大学教授)
- 富永 順三 (株)ナレッジパートナー代表

学校教職員参加者

- 大崎 弘司 (校長)
- 稲田 淳子 (教頭)
- 井上 義之 (事務長)
- 細川 太郎 (首席)
- 高山 玄一 (首席)
- 白木原 舜 (生徒指導部長)

- (1) 副会長挨拶
- (2) 校長挨拶
- (3) 令和元年度学校経営計画の進捗状況 (校長)
- (4) オープンスクール 体験授業 の見学 (10:40~)
- (5) 生徒・学校の状況
 - 1) 生徒指導上の取組 (白木原 生徒指導部長)
 - 2) 3年生の進路状況 (高山首席)
 - 3) 2年生の状況について (細川首席)
 - 4) 1年生の状況について (高山首席)
- (6) その他 (教頭)
 - ・次年度使用教科書一覧
 - ・転退学者について
- (7) 本校の教育活動に関する意見交換

[主な質問、意見等]

○は質問、 →は答え、 ●は意見や感想

- (以前に比べて) 転退学者が減っている。
→ 保護者へ密な連絡を行うようにしている。保護者の協力も大きい。

- 地域連携とは具体的にどのようなところと連携しているのか。
→ 中学校への出前授業や保育所との交流。福祉の授業では NPO 法人との連携を取り入れている。少しずつであるが、広げる方向で考えている。

- 中学校でも車いすを使った授業を行っているので、貸し出しでもらえないか。
→ 本校の授業に支障がない範囲で、お役に立てるならご利用ください。

- (遅刻の数について) 中学校でも、学年によって生徒の様子が異なる。遅刻の多い学年、少ない学年がある。

- 年々子供たちは大きな問題をおこさなくなっている。穏やかになっているが、エネルギーがなくなってきたともいえる。以前は、家庭的に問題を抱えている生徒が、そのことを外面的に表現していたが、表現することもできなくなっているのではないかと。朝、遅刻することもなく登校し、問題なく学校生活を送っていると思える生徒であっても、家庭的に大きな問題を抱えていたりすることがあり驚くことがある。

- オープンスクールはどのあたりの中学生が来ているのか。年に数回あるということだが、どの時期の参加者が多いのか。
→ 堺市以南の中学生が多いです。体験授業の振り分けがあるので、中学校を通じて事前に申し込みをしていただいています。1月に実施するオープンスクールが、例年参加者が多くなります。2月は入試直前ということもあり、今年度からは全体形式はやめて、個別相談会という形で実施する予定です。中学校の先生からもその方がよいとの話を聞いています。

- 2年生の修学旅行は沖縄に行くとのことであるが、焼失した首里城もコースに入っているのか。
→ 全体の行程には首里城は含まれていないが、グループでの選択コースに一部入っている。生徒は今回の首里城の火災についてとても心を痛めている。焼失してしまったが、そこに世界遺産があったということを確認に行きたいし、それが燃え落ちてしまったということも含めて自分たちで確認したいという声も生徒から聞かれる。これから相談していきたい。